

平成 28 年度 小項目評価(案)の一覧表

項目	頁	法人 自己 評価	委員 会 評価 (案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H27 委員 会 評価
第 1 市民に対して提供するサービス その他の業務の質の向上に関する 事項	—	—	—			—
1 市立病院として担うべき医療	—	—	—			—
(1)救命救急センターを含む救急医療 (重点ウエイト項目)	4	5		<p>○目標指標は増加しており、実績はすばらしい。</p> <p>○質的に言っても地域では努力されている。</p> <p>○一方で、職員の負担が増加していることが懸念される。</p> <p>○救急医療については、堺市立総合医療センターが地域でどのような役割を担っていくのか、また、どの程度が適正なのか、考えていく必要がある。</p> <p>(論点) ◆評価 5 というのは最高評価、全体の評価結果とのバランスを踏まえて、評価は妥当か。</p>	<p>平成 28 年度は、前年度の 7 月に救命救急センターを設置後、初めて通年で三次救急医療の提供を行った。三次救急搬送受入カバー率は 77.7% となり、管外への搬送件数も減少した。また、関連指標である重度外傷応需率及び重度疾病応需率が前年度より増加しており、対応が難しい重篤な患者の受け入れに積極的に取り組んだ成果として、高く評価することができる。</p> <p>二次救急医療については、目標指標である救急搬送受入件数(三次救急搬送受入件数を含む)が、年度計画目標 8,600 件に対し、9,216 件と目標を大きく上回り、第 2 期中期計画の最終目標に到達するほどの実績であった。関連指標のウォークイン件数についても、前年度より 2,514 件増の 13,925 件を受け入れた。これらの実績はすばらしく、二次救急医療についても、三次救急医療との一体的な運用を行い、適切に救急医療を提供したと評価することができる。</p> <p>一方で、成果をあげると同時に職員の負担が増加することも懸念される。運用で工夫すること、地域の医療機関との役割分担やメディカルコントロール協議会での調整によって救急医療の適正な均衡を図ることで、職員の疲弊の防止及び安定的な救急医療体制の維持に繋げてほしい。</p>	5

項目	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H27委員会評価
(2) 小児医療・周産期医療	7	3		○小児科もかなり頑張っておられるので、もう少し評価しても良いと思う。	(※最終評価3の場合は、コメントなし。) 小児医療については、前年度に引き続き、小児の外科系疾患や外傷患者を、小児科と救急等が連携し積極的に受け入れ、その取り組みが注目されテレビ番組で紹介された。周産期医療については、周産期の拠点となる総合周産期母子センター及び地域周産期母子医療センターとの連携強化を図り、適正な役割分担のもと、安定的な医療の提供に貢献した。また、目標指標である分娩件数は、年度計画目標 460 件に対し、493 件と目標を上回る実績であった。 小児救急医療では、目標指標の小児救急搬送受入件数が年度計画目標を下回る結果となってしまったが、堺市管内で発生した小児救急搬送の半数以上を適切に受け入れており、地域の医療機関との均衡を意識すると、決して低い実績ではない。また、隣接する堺市こども急病診療センターの二次後送も最も多く受け入れ、小児二次救急医療体制の確保に大きく貢献しており、十分に評価することができる。	3
(3) 感染症医療	10	3	3	○平成 28 年度は実績がなかったもので、判断が難しい。		3
(4) 災害その他緊急時の医療	12	4	4		平成 28 年度は、大規模災害に備えた訓練として、従来のエマルゴトレーニングシステムによる机上訓練から、実働訓練に切り替えた。関連指標である災害訓練回数は、前年度より 10 回増の 25 回であった。また、災害拠点病院として、災害医療協力病院である救急告示病院を対象に災害研修会を開催するなど、地域全体で災害時における医療体制を考えていく基盤を築いた。 特に、平成 28 年度に発生した熊本地震において、DMAT 隊や災害支援ナースを早期に派遣し、被災地の病院支援や生活支援に大きく貢献することができた。日頃の訓練や備えが、成果として結び付いたものであり、十分に評価することができる。	4

項目	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H27委員会評価
2 高度専門医療の提供	—	—	—			—
(1)がんへの対応(重点ウエイト項目)	14	4		<p>○患者が相談を受ける機会が増えるように取組み、がん相談件数の増加に結び付いたことは、素晴らしい。</p> <p>○がん診療だけでなく、緩和ケアやがん予防に関して、今後どのような方向性か。</p>	<p>がん診療においては、目標指標である化学療法調製件数、放射線治療延件数及び悪性腫瘍手術件数が、すべて年度計画目標を上回る実績であった。特に、放射線治療延件数及び悪性腫瘍手術件数については、第2期中期計画の最終目標に到達した。また、がん登録件数についても年度計画目標1,450件に対し、1,758件を達成し、これについても第2期中期計画の最終目標に達した。厚生労働省により指定された地域がん診療連携拠点病院としての重要な役割を果たした実績は、十分に評価することができる。</p> <p>がん診療に加え、がん相談についても患者が相談しやすい環境づくりに力を入れ、関連指標であるがん相談件数が大きく増加した。そして、前年度より新設した緩和ケア病床についても、常勤の専門医を配置し、緩和ケア医療のさらなる充実に努めた。</p> <p>さらに、平成28年10月から堺市が新しく実施したがん検診制度にも対応し、がん対策に関する施策の推進に積極的に協力した。</p> <p>この項目については、かなり高水準の成果があったと認められる。法人が高い意識をもって、今後より素晴らしい成果をあげられることが大いに期待できる。</p>	4
(2)脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病への対応	18	4	4	<p>(論点)</p> <p>◆今年度の法人自己評価と前年度評価が異なる。</p>	<p>脳卒中及び急性心筋梗塞については、引き続き、救命救急センターとの連携のもと、ブレインオンコール及びハートコール体制を24時間365日維持した。糖尿病についても、総合病院として、受入困難な合併症患者に対応した。</p> <p>実績としては、各症例の患者受入件数や関連指標であるt-PA治療実施件数を前年度より増加させており、十分に評価できる。</p> <p>関連指標の脳卒中中クリニカルパス実施件数については、減少となったが、これは既存のパスの適用条件では、堺市立総合医療センターの実態において適応できなくなってしまうためであった。実務では適切に他の医療機関へ治療計画の引き継ぎを行っていた。成果が示されないのは非常に残念であることから、客観的に成果を反映できる指標の構築を進めてほしい。</p> <p>また、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病については、他の地域医療機関との役割分担の中で、どの水準まで責務を果たしていくのか、病院全体で方向性を見極める必要がある。</p>	3

項目	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H27委員会評価
(3) 高度専門医療の推進	21	4	4		<p>前年度に導入した手術支援ロボット「ダビンチ」による腹腔鏡手術を本格的に開始し、集中治療室の上位施設基準を取得。放射線療法の分野では、直線加速器による定位放射線治療や強度変調放射線治療（IMRT）を開始し、患者の身体に負担の少ない低侵襲治療を行った。また、新たに小腸カプセル型内視鏡を導入するなど内視鏡検査の充実を図った。</p> <p>関連指標である腹腔鏡（胸腔鏡）下手術件数は、前年度よりさらに205件増の1,105件であった。これは、旧病院での実績と比較すると倍近くに増加している。新病院に移転したことや職員の努力によって、より高度専門医療に対応できるようになったことは、十分に評価できる。</p> <p>治験実施件数及び先進医療届け出件数についても、前年度より増加し、医療職が診療を行いながらも、臨床研究や治験の推進に努められたことが分かった。新たに、移植医療にも挑戦しており、研究分野への今後の展開に大きく期待がもてる取組み内容であった。</p>	4
3 安全・安心で信頼される患者中心の医療の提供	—	—	—			—
(1) 医療安全対策の徹底	24	4		<p>○医療安全研修を全職員が受講しているのであれば、それは評価できるので、きちんと記載した方が良い。</p> <p>○インシデント、アクシデントレポートのうち迅速に周知すべきものについては、院内ですぐに情報共有できている。</p>	<p>平成28年度についても、関連指標の医療安全研修実施件数及び医療安全研修参加延人数のとおり、全職員が医療安全研修を適切に受講することができた。</p> <p>そして、インシデントレポートについては、提出の徹底を促した結果、報告件数が増加し、特に医師からの報告件数は2倍以上増えた。アクシデントレポートについては、報告件数が前年度より増え、医療安全対策の効果が出ていないように思えるが、これは、平成28年度から合併症の発生もアクシデントに集計したための増加であり、前年度と同一種類のアクシデントは実質減少していることから、一定の成果は認められる。</p> <p>医療安全対策は、医療事故の予防や再発防止に病院全体で取り組むことに意義があり、その環境を整えたことは十分に評価できる。報告しやすい環境が整備されたことから、今後は、件数ではなく内容に着目し、より実効性のある医療安全対策に繋げてほしい。</p>	4

項目	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H27委員会評価
(2) 医療の質の向上	27	4	4		<p>多職種が連携するチーム医療の充実のため、前年度に開設した手術サポートセンターの手術サポートチームによる術前リスク評価による介入の機会を拡大し、さまざまな視点から術前リスクを検討して、医療の質向上に繋げた。また、平成 28 年度は、新たに認知症ケアチームを発足させた。</p> <p>関連指標であるクリニカルパス適用率及びクリニカルパス数は、前年度とほぼ同様に推移した。平成 28 年度は、クリニカルパスの改訂に取り組み、全国平均在院日数以上のパスの見直しや同規模病院とのベンチマークによるパス改訂などを実施した。</p> <p>クリニカルインディケータについても引き続きホームページに公開し、新たにQ Iワーキングを立ち上げ、臨床指標の見直し、新たな臨床指標の設定を検討した。</p> <p>医療の質向上へ向けて取り組みを進めるだけでなく、適宜見直し、改善を行う姿勢は、十分に評価することができる。これらの取り組みが、今後よい成果に結びつくことが期待できる。</p>	4
(3) 法令・行動規範の遵守 (コンプライアンス)	29	3	3			3
(4) 患者の視点に立った医療の実践	30	3	3			3
(5) 患者サービスの向上	32	4	4		<p>患者にとってストレスとなる待ち時間の短縮を図るため、診療費を携帯電話料金と一緒に支払うことができるスマート病院会計を導入した。また、季節ごとの院内イベントも継続し、患者に選ばれる病院づくりに引き続き努められたことは、十分に評価できる。</p> <p>目標指標である患者満足度調査結果については、2年に1度の実施を計画しているため、平成 28 年度は実施しなかったが、代わりに他の医療機関と満足度を比較できる民間企業の調査方法を用いた調査を実施した。結果は、他の医療機関より全体的に満足度は高水準であり、取り組みの成果として客観的に十分に評価することができる。満足度調査については、今後も院内で実施するものに留まらず、外部委託などで、より客観的に調査することも検討してほしい。</p>	4

項目	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H27委員会評価
4 地域への貢献	—	—	—			—
(1) 地域の医療機関との連携推進	34	4	4	(論点) ◆今年度の法人自己評価と前年度評価が異なる。	<p>目標指標である紹介率は、年度計画目標 66.0%に対し、71.6%を達成し、第2期中期計画の最終目標である 68.0%に到達した。逆紹介率については、年度計画目標 75.0%に対し、74.6%とやや目標を下回ったものの、高水準の実績であることに変わりなく、地域の医療機関との連携や協力が活発に行われたことが理解でき、十分に評価することができる。また、関連指標である開放病床利用率についても、前年度の 57.7%から 20.1%増の 77.8%となり利用促進が進んだ。</p> <p>在宅医療推進のための関係機関との連携強化については、連携登録を行っている地域の医療機関の医師を招待し、初めて登録医総会を開催した。登録医総会開催後は、顔の見える関係を構築したことで、さらに病診連携が円滑に行えるようになった。また、多職種による退院前カンファレンスや訪問看護ステーションとの交流会も開催し、顔の見える関係づくりに努めた。今後は、構築された関係を強みとして、病院機能に応じた在宅医療ネットワークづくりを進めていっていただきたい。</p>	3
(2) 地域での医療従事者の育成	37	5		(論点) ◆評価5というのは最高評価、全体の評価結果とのバランスを踏まえて、評価は妥当か。 ◆法人が考える年度計画を大幅に上回っているポイントはどこか。	<p>平成 28 年度は、関連指標である医学生、看護学生、薬学部生の受入人数が、すべて前年度を上回った。</p> <p>臨床研修に関しては、特設サイトやパンフレットを作成し、魅力ある研修内容の広報活動に努めた。また、初期研修医への研修内容が、大阪府に評価され、府下で唯一研修医の定員数を 1 名増やすことを認められた。</p> <p>看護局では、専門看護師及び認定看護師による出前でレクチャーを開始し、院内だけでなく、近隣の医療機関や介護施設を対象として、地域の人材育成にも努めた。</p> <p>これらの取り組みは、職員の努力によって実現されたもので、魅力ある病院として実習生も増加したことから高く評価できる。</p> <p>尚、ここまで努力されていることについては、取り組みに対してどのような効果があったのか可能な限り把握する必要はあるように思う。臨床研修はもちろん出前でレクチャーにおいてもアンケートを実施するなどして、受講者にどのような効果があったのか後から検証できる工夫をされた方が、病院や地域にとっても、よい取り組みであったと確認することができる。</p>	4

項目	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H27委員会評価
(3) 医療、保健、福祉、教育などの行政全般等との連携と協力	40	4	4	(論点) ◆今年度の法人自己評価と前年度評価が異なる。	<p>市民に対する保健医療情報の発信及び啓発に関しては、市民公開講座の開催数は23回、参加延人数は1,149人であり、積極的に行っている。また、院外広報誌やSNSを活用した情報発信も継続した。</p> <p>行政機関との連携については、COPDに関する講演会や、がんに関する啓発講演会「いのちの授業」を開催し、医療分野だけでなく教育など幅広い分野で行政機関と協力した。</p> <p>平成28年度は、新たに東京都で開催された性暴力被害者支援看護師(SANE)養成講座に、看護職員を参加させ、養成講座修了後には、性暴力被害者への支援が行え、行政ともより専門的な連携がとれる職員の育成を進めた。性暴力救援センター大阪(SACHICO)の協力医療機関として、堺市と協力し性暴力被害者支援体制の強化、充実に寄与した。</p> <p>行政全般等に、協力を惜しむことなく連携に努めており、十分に評価することができる。</p>	3
第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	—	—	—			—
1 効率的・効果的な業務運営	—	—	—			—
(1) 自律性・機動性の高い組織づくり	43	4	4		<p>新理事長、新院長の就任に伴い、平成28年度は新たな組織体制での業務運営となった。新しい組織の取り組みとして、全職員を対象に「理事長、院長意見交換会」を全10回開催し、現場職員との意思統一を図った。また、理事長、院長に直接意見や要望を伝えることができるホットライン(専用メールアドレス)を公開し、風通しの良い組織づくりを進めた。</p> <p>そして、全部署に対して、理事長、院長ヒアリングを12日間かけて実施した。約50科ほどある診療科を28グループに分け、グループごとに事業計画目標を設定し、その成果、実績、課題について幹部と情報共有した。グループ内でも、科ごとには分からなかった各科の実情や課題を把握することができ、効率的な業務運営を進めることができた。</p> <p>新体制の中で、速やかに職員との情報共有を図り、新理事長、新院長が前任のリーダーシップを引き継いで、さらにレベルアップした組織づくりに取り組みされたことは、十分に評価できる。新しい組織運営のもと、引き続き、患者動向や医療需要の変化に応じた効果的な医療提供ができる体制を維持してほしい。</p>	4

項目	頁	法人 自己 評価	委員 会 評価 (案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント (案)	H27 委員 会 評価
(2) 質の高い経営	45	4	4		<p>以前より課題であった費用の削減について、経営改革推進委員会を発足し、「医療材料費の抑制」、「一般管理費の抑制」、「診療報酬の適正請求」の3つのタスクフォースを立ち上げ、それぞれのミッションに基づき改善活動に取り組んだ。</p> <p>そして、新病院における収益と費用の実態を把握し、改善点を検討する判断材料として、診療科別原価計算書を作成し、理事長ヒアリングにおいて資料として活用することで、各科に経営面での現状把握をしてもらった。また、薬剤技術局の役職者に経営指標に関するレクチャーを行い、医療職への経営参画意識を高めた。</p> <p>新しい診療科も含めて、早々に収益と費用についての現状把握に踏み切ったことで、事務職だけでなく医療職とも一体的に経営に取り組む風土を醸成していることは、十分に評価することができる。</p> <p>これらを活かし、組織一体となった戦略的な病院経営をめざして、設定した目標に対してはPDCAサイクルによる管理を適切に行っていたいただきたい。</p>	4
(3) 外部評価等の活用	47	3	3			3
2 やりがいを感じ、働きやすい病院づくり	—	—	—			—
(1) 職員のキャリアアップにつながる人事・給与制度の整備	48	4	4		<p>前年度に改定した人材育成計画に基づき、階層別の職員研修を実施し、職員の人材育成に取り組んだ。また、通信教育受講助成制度についても継続し、17名が通信教育を受講することができた。</p> <p>医療、看護の質向上を目的として、特定看護師、認定看護師の資格取得を引き続き支援し、平成28年度は新たに4名が資格を取得した。このうち特定看護師については、初めて資格を取得した。</p> <p>職員のキャリアアップに関しては、非常に前向きな支援を行っており、十分に評価することができる。一方で、この支援によって、本当に職員のモチベーションの向上に繋がっているのか、実態を把握する必要はあるように思う。また、今後、育成面だけでなく、評価面の取り組みについても進めていってほしい。</p>	4

項目	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント(案)	H27委員会評価
(2) 働きやすい職場環境の整備	50	4	4		<p>職員の働きやすい職場環境づくりのために、休暇休業制度等の勤務労働条件の変更や労働時間管理について監督職に対し研修を実施した。また、院内のイントラネットに、職員の持つ不安等の相談のため窓口案内を掲載した。</p> <p>子育てと仕事の両立についての取組みとしては、院内保育所ぞうさんを引き続き運営し、産休・育休を取得している職員に対しては、引き続きパパママ通信(復職支援通信)を発行し、子育てと仕事の両立についてのセミナーも開催した。復職に際しては、専用の面談シートを作成し、所属長との面談で活用することで相互理解を深められるよう工夫した。また、平成28年度の看護師離職率は、全国平均10.9%に対し、6.2%と低く、新人看護師離職率は0%であった。</p> <p>働きやすい職場環境づくりへの取り組み姿勢や、特に子育て世代へ配慮した支援体制は、十分に評価することができる。</p>	4
第3 財務内容の改善に関する事項	—	—	—			—
1 安定した経営基盤の早期確立 (重点ウエイト項目)	52	4			<p>収益については、医業収益に影響を与える目標指標の平均在院日数、新入院患者数、手術件数、全身麻酔件数、後発医薬品採用率、外来患者数、窓口負担金の収納率がすべて年度計画目標を上回る実績となった。年度計画目標を下回った指標についても、決して低い実績とは言えず、将来に期待がもてる収益性を確保できたと判断でき、十分に評価することができる。</p> <p>費用の削減についても、2-1-(2) 質の高い経営において記載されているとおり、3つのタスクフォースによる改善活動を行い、関連指標である給与対診療収入比率、材料費対診療収入比率及び経費対診療収入比率は順調に減少した。</p> <p>最終経常収支は赤字ではあるものの、収益と費用のバランスはとれており、順調に計画通り経営を進捗されたと判断できる。</p> <p>前年度に移転という特殊要因があったにもかかわらず、収支の均衡をここまで回復させたことは大いに評価している。順調に取り組みを続け、早い段階で経常収支黒字を達成に繋げてもらいたい。</p>	3

項目	頁	法人 自己 評価	委員 会 評価 (案)	前回会議での主な意見、論点	評価結果報告書コメント (案)	H27 委員 会 評価
第4 その他業務運営に関する重要事項	—	—	—			—
1 環境にやさしい病院運営	56	3	3			3
2 新病院の整備及び運営に関する取組	57					